

# 平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年11月15日

上場取引所 札

上場会社名 株式会社 テラネット  
 コード番号 2140 URL <http://terranetz.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月15日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 藤田 一郎  
 (氏名) 岡久 勉

TEL 011-876-9544

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年12月期第3四半期の業績(平成22年1月1日～平成22年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	386	△12.0	△65	—	△69	—	△73	—
21年12月期第3四半期	438	—	△10	—	△22	—	242	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	△1,611.02	—
21年12月期第3四半期	7,287.48	—

### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
22年12月期第3四半期	238	—	△31	—	△13.2	—	△685.88	—
21年12月期	348	—	42	—	12.2	—	925.15	—

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 △31百万円 21年12月期 42百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年12月期	—	0.00	—	—	—
22年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成22年12月期の業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
通期	571	1.4	△58	—	△63	—	△67	—	△1,465.01	—

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年12月期3Q 45,887株 21年12月期 45,887株

② 期末自己株式数 22年12月期3Q ー株 21年12月期 ー株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 22年12月期3Q 45,887株 21年12月期3Q 33,282株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
(第3四半期累計期間) .....	5
(第3四半期会計期間) .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、猛暑やエコ優遇特需の寄与もあって昨年春以降の景気回復局面に基調的变化はみられませんでした。急激な円高進行に加え、厳しい雇用・所得環境に改善の兆しがみられず、先行きの景気に下振れリスクを抱えたまま推移いたしました。

当社の事業を取り巻く環境においては、携帯電話が高速な3G通信、ワンセグ放送などエンターテインメント機能が拡充し、個人用エンターテインメント端末の核となりつつあり、魅力的なコンテンツ・サービスの提供が重要になってきました。また、SNS（ソーシャルネットワークサービス）などに代表されるソーシャルメディアが普及し、コンテンツ・サービスのプロバイダは、複雑化するユーザーニーズに対応するため、多種多様なコンテンツ・サービスの創出が求められています。

このような状況のもと、当社では首都圏の企業間取引の営業強化として、東京本社に法人営業の請負案件の制作チームを設置いたしました。これまで札幌オフィスにて行っていた業務の一部を東京本社でも対応できる体制にいたしました。これにより、東京本社において企画から営業、制作及び納品までに対応できる体制が敷かれ、スピード案件に的確に応えられるようになりました。また、需要が拡大しているソーシャルアプリへの対応として、大手ソーシャル・ネットワーク・サービス運営会社へ当社オリジナル制作のソーシャルゲームを提供いたしました。今後もソーシャル・ネットワーク・サービス運営会社へ当社オリジナル制作のソーシャルゲームを数多く提供していく予定であります。

コンシューマー向けサービスでは、各ゲーム内にてサマーイベント等の期間限定商品をリリースし、サイト内の活性化及び課金導線の強化に注力いたしました。

この結果、新規継続案件の獲得や携帯コンテンツのリリース等、一定の効果は実現したものの、3Dコンテンツ等新たな技術に対応するための制作体制の強化が遅れたこと等により既存取引先の取引高減少等が影響し、当第3四半期累計期間における当社の売上高は386,359千円（前年同期比12.0%減）となり、営業損失65,574千円（前年同期は営業損失10,411千円）、経常損失69,236千円（前年同期は経常損失22,340千円）、四半期純損失は73,925千円（前年同期は四半期純利益242,542千円）となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末における総資産は238,009千円（前期末348,736千円）で前期末比110,726千円減少しました。

そのうち流動資産は、115,758千円（前期末197,888千円）で前期末比82,129千円減少、固定資産は122,250千円（前期末150,848千円）で前期末比28,597千円減少となりました。

これに対する当第3四半期会計期間末の負債合計は、269,482千円（前期末306,284千円）で前期末比36,801千円減少しました。このうち流動負債は142,696千円（前期末151,104千円）で前期末比8,408千円減少、固定負債は126,786千円（前期末155,179千円）で前期末比28,393千円減少となりました。

当第3四半期会計期間末の純資産は、△31,472千円（前期末42,452千円）で前期末比73,925千円減少、自己資本比率は△13.2%となり、その結果、1株当たり純資産額は△685円88銭となりました。

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は45,207千円となりました。なお、当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは6,126千円の資金の増加（前年同四半期は30,774千円の資金の増加）となりました。これは主に、税引前四半期純損失72,490千円を計上したものの、減価償却費34,037千円及びコンテンツ償却費35,716千円の計上、並びに売上債権が4,325千円減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは47,246千円の資金の減少（前年同四半期は48,090千円の資金の減少）となりました。これは主に、無形固定資産45,972千円の取得による支出があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは28,248千円の資金の減少（前年同四半期は79,689千円の資金の増加）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出25,270千円があったことによるものであります。

### (3) 業績予想に関する定性的情報

平成22年8月4日付に公表した通期業績予想に変更はありません。

なお、今後業績予想に関して修正する必要が生じた時点で速やかに開示する予定であります。

## 2. その他の情報

### (1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### (簡便な会計処理)

#### a. 棚卸資産の評価方法

当第3四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

#### b. 固定資産の減価償却の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### c. 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期会計期間末の貸倒実績率が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

### (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### (表示方法の変更)

前第3四半期会計期間末において、貸借対照表の流動資産の「その他」として一括掲記しておりました「原材料及び貯蔵品」(前第3四半期会計期間末1,904千円)は重要性が増したため区分掲記しております。

### (3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、当第3四半期累計期間において、重要な営業損失を計上した結果、債務超過となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況(重要事象等)が存在しております。

当該重要事象等を解消し、または改善するための対応策といたしましては、既存取引先との取引拡大及び幅広いマーケットへの対応を進めることで新規顧客の開拓に努め、大型の協業案件の獲得及び当社が独自に企画運営する携帯コンテンツ事業の迅速化に注力することで収益力の向上を図り、販売管理費についても引き続き徹底した見直しにより削減を図ることに努める所存でおります。このような施策を具現化することにより、赤字要因であった固定費の回収が可能となり、営業利益が確保できる体制へと転換してまいります。これにより、平成23年12月期中には債務超過は解消される見込みであります。

以上により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は解消されるものと判断しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	45,207	114,576
売掛金	54,487	58,812
商品及び製品	340	563
原材料及び貯蔵品	4,408	3,617
その他	13,101	23,138
貸倒引当金	△1,786	△2,820
流動資産合計	115,758	197,888
固定資産		
有形固定資産	10,010	26,803
無形固定資産		
ソフトウェア	42,366	56,721
コンテンツ	54,277	47,288
その他	395	1,995
無形固定資産合計	97,040	106,006
投資その他の資産	15,200	18,038
固定資産合計	122,250	150,848
資産合計	238,009	348,736
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	70,000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	30,324	30,324
未払法人税等	2,027	3,127
その他	40,344	47,652
流動負債合計	142,696	151,104
固定負債		
長期借入金	121,721	146,991
その他	5,065	8,188
固定負債合計	126,786	155,179
負債合計	269,482	306,284
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	675,402	675,402
資本剰余金	244,716	244,716
利益剰余金	△951,591	△877,666
株主資本合計	△31,472	42,452
純資産合計	△31,472	42,452
負債純資産合計	238,009	348,736

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	438,942	386,359
売上原価	176,869	186,065
売上総利益	262,072	200,294
販売費及び一般管理費	272,484	265,869
営業損失(△)	△10,411	△65,574
営業外収益		
受取利息	120	47
その他	—	41
営業外収益合計	120	89
営業外費用		
増資関連費用	5,790	—
支払利息	5,983	3,534
その他	275	216
営業外費用合計	12,049	3,750
経常損失(△)	△22,340	△69,236
特別利益		
貸倒引当金戻入額	24,000	—
債務保証損失引当金戻入額	242,584	—
償却債権取立益	—	70
特別利益合計	266,584	70
特別損失		
貸倒損失	253	—
固定資産除却損	—	3,324
特別損失合計	253	3,324
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	243,990	△72,490
法人税、住民税及び事業税	1,448	1,434
法人税等合計	1,448	1,434
四半期純利益又は四半期純損失(△)	242,542	△73,925

(第3四半期会計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	133,604	127,458
売上原価	57,451	63,107
売上総利益	76,152	64,351
販売費及び一般管理費	90,019	91,756
営業損失(△)	△13,867	△27,405
営業外収益		
受取利息	37	16
営業外収益合計	37	16
営業外費用		
支払利息	1,895	1,133
その他	0	3
営業外費用合計	1,896	1,136
経常損失(△)	△15,726	△28,525
特別利益		
貸倒引当金戻入額	15,000	△26
債務保証損失引当金戻入額	251,584	—
償却債権取立益	—	40
特別利益合計	266,584	13
特別損失		
貸倒損失	134	—
固定資産除却損	—	3,324
特別損失合計	134	3,324
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	250,723	△31,835
法人税、住民税及び事業税	482	478
法人税等合計	482	478
四半期純利益又は四半期純損失(△)	250,241	△32,313

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	243,990	△72,490
減価償却費	27,578	34,037
貸倒損失	253	—
コンテンツ償却費	35,409	35,716
著作権利用許諾使用料	—	805
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△29,107	△1,034
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	△242,584	—
受取利息及び受取配当金	△120	△47
支払利息	5,983	3,534
固定資産除却損	—	3,324
売上債権の増減額(△は増加)	4,677	4,325
たな卸資産の増減額(△は増加)	12	222
外注未払金の増減額(△は減少)	△810	3,988
未払金の増減額(△は減少)	△1,036	△5,221
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△8,363	14,437
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△1,619	△5,145
未払消費税等の増減額(△は減少)	2,428	△4,017
小計	36,691	12,435
利息及び配当金の受取額	120	47
利息の支払額	△5,458	△3,761
法人税等の支払額	△580	△3,127
法人税等の還付額	—	531
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,774	6,126
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△11,520	—
無形固定資産の取得による支出	△39,881	△45,972
長期前払費用の取得による支出	—	△1,000
貸付けによる支出	△2,600	△1,900
貸付金の回収による収入	15,772	1,626
敷金及び保証金の回収による収入	440	—
その他	△10,300	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,090	△47,246
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△90,000	—
長期借入れによる収入	80,000	—
長期借入金の返済による支出	△23,269	△25,270
株式の発行による収入	115,800	—
リース債務の返済による支出	△2,841	△2,978
財務活動によるキャッシュ・フロー	79,689	△28,248
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	62,373	△69,369
現金及び現金同等物の期首残高	66,088	114,576
現金及び現金同等物の四半期末残高	128,461	45,207

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当第3四半期累計期間において、73,925千円の四半期純損失を計上いたしました。これにより、当第3四半期会計期間末において利益剰余金が前事業年度末と比べて73,925千円減少し、当第3四半期会計期間末における株主資本は△31,472千円となっております。